

第32回与謝野町地域公共交通会議 会議報告書

■日 時 令和3年6月24日（木）午後2時から3時20分まで

■場 所 加悦保健センター 2階 農事研修室

■出席者

山添 藤真	笹岡 洋一	長島 誠	小塚 敏郎	小西 正芳
河邊 時寛	渋谷 卓司	石倉 秀紀	林 忠広	春名 靖弘
柴山 進	片岡 伸夫	古田 良明	中川 世士	小池 大介

■代理出席者

藤原 幸嗣	上浦 大輔	西原 誠
-------	-------	------

■欠席者

中上 敏朗	井崎 智満	坂口 孝二
-------	-------	-------

■事務局

小谷 企財主幹	河野 企財補佐	本田 企財主事
---------	---------	---------

会議の要点

- 交代された会議委員の紹介、副会長を選出。
- これまでの会議の経緯を確認。低料金バス（丹海200円バス）およびコミュニティバスひまわりの実績報告。
- コミュニティバスひまわりの事業計画案について確認。については会長、事務局に一任いただくことを承認。
- 与謝野町社会福祉協議会から令和2年度の実績報告。
- 令和2年度の200円レール利用実績、高齢者運転免許証自主返納事業、クアハウス連携事業の利用実績について報告。
- 京丹後市で令和3年3月に実証実験のあったWILLERmobi事業について、WILLER社から報告。
- 峰山四辻線がフィーダー路線のため、申請資料が整い次第、別途書面協議を開催させていただく旨参加者へ連絡。

■会議内容

1. 開会
配付資料の確認、出席状況の報告
2. 会長あいさつ（割愛）
3. 設置目的および検討経過について
・委員の改選年であり新しく委員になられた方に向け資料1について事務局から説明
4. 議事
(1) 副会長の選任
地域住民代表として、コミュニティバスひまわりの主な運行地域でもある加悦地域の中上敏朗香河区長に就任いただいた。

(2) 低料金バス（丹海 200 円バス）の実績について

【概要】

- 資料 2-1 について事務局から説明。丹後海陸交通株式会社（以下、丹海バス）が運行する町内 7 路線について令和 2 年度の 200 円バスの乗車人数・運送収入実績を報告。昨年度までは低料金バス（200 円バス）を導入時の設定目標に対しての達成率を説明していたが、令和 2 年度は新型コロナウイルスによる影響でどの路線も対前年度比で実績は減少している。与謝線については前年度比で増加しており、要因としては令和元年度の与謝線・福知山線の再編、令和 2 年度の峰山四辻線（病院線）の再編により与謝線に利用者を集約出来たことが大きく、再編の効果が一定あったと分析する。しかし、増加傾向ではあるが、元の実績値が低いことからこのままでは国の補助要件を満たさないため、更なる利用促進が求められていることを説明した。

(3) 令和 2 年度コミュニティバスひまわり運行実績について

(4) 令和 3 年度コミュニティバスひまわり事業計画について

（生活交通確保維持改善計画「地域内フィーダー系統確保維持計画」について）

【概要】

- 資料 2-2 について事務局から説明。コミュニティバスひまわりは丹海バスに運行を委託しており、路線は奥滝線、加悦奥・石川線の既存の 2 路線に加え、令和 2 年 10 月 1 日より岩屋線を追加した計 3 路線で運行している。また、10 月 1 日の再編により週 2 日運行を週 3 日運行に変更した旨を説明。
- コミュニティバスひまわりの全体利用者数、各路線利用者数、運賃収入額について報告。全体利用者数は前年度比で若干増加したように見えるが、令和 2 年 10 月から岩屋線の新設、週 2 日から週 3 日に増便したことによるもので、奥滝線、加悦奥・石川線の計 2 路線で比べると減少している。要因として、新型コロナウイルス感染症による移動自粛や人口減少による影響で利用者が減少したものと分析。今後はワクチン接種が行き届けば移動自粛の利用者分は戻る見込み。
- 資料 2-3 について事務局から説明。本計画案については国の補助金を申請するにあたり必要な様式であり、当協議会での承認が必要となる。項目 2 の事業の目標について、目標設定の根拠を説明。細かな部分については、令和 3 年度も引き続き運行をするための情報を、国の指定様式に落とし込むとこのような形になるということをご理解いただき、その他の説明は割愛。

委員：

目標に関して、延べ人数の関係を説明されたが、そもそも運営する側として成立する目標、どれくらいの人数的の方に利用してもらうと赤字にならないという、お金の観点で整理された内容はあるのか。

事務局：

年間の運送委託料は途中から岩屋線が増えたことが前提だが、年間 770 万円ほど。その中で国の補助金が 290 万円ほど入っており、運賃収入は 84 万円ほど。差し引きすると 480 万円くらいが赤字となる。運賃で割り返すと難しい数字になる。バスを走らせる目的を冒頭で説明させてもらったが、地域の重要な移動手段である。幹線に接続する路線ということで町の方で走らせて行こうと位置づけている。

会長：

他に意見がないようなので、(4) はこの協議会で合意形成が図れたものとさせてもらう。

(5) 福祉有償運送事業の実績について

【概要】

- 資料 3 に基づき石倉委員から説明。
 - ・1 ページ目、対象者については登録をお世話になり、
 - ・4 ページ目、登録会員の状況として本年度は 225 人、括弧内の数字が前年度で、236 人となっている。
 - ・5 ページ目、実際の利用実績。利用回数は片道＝1 回（自宅から病院までを 1 回、病院から自宅までを 1 回とカウント）で 3,057 回の利用をいただいた。
 - ・往診を自粛している方もおり、登録を辞めた方もいらっしゃるが、4 月以降はワクチン接種が始まり、現在の数字を申し上げられないが登録者も伸びてきている状況。
 - ・長距離としては弥栄病院まで利用される人がいる。一番多い方は透析利用で月単位で 28 回、14 日を利用されている。
 - ・この地域においては公共交通期間を利用できないような身障者さん等の方で非常に重要な移動手段となっている。

(6) 公共交通利用促進事業の実績について（報告）

【概要】

- ・丹鉄高齢者片道 200 円レール事業について
- ・高齢者運転免許証自主返納事業について
- ・クアハウス提携事業について

○資料 4 に基づき事務局から説明。

- ▷令和 2 年度丹鉄高齢者片道 200 円レール実績について、累計利用実績は 31,387 人となった。単年度の利用で見ると、令和 2 年度は 2,073 人であり、昨年度より大幅に減少した。コロナ禍で国の移動制限や移動自粛が要因と考えられる。引き続き利用促進に努める。
- ▷令和 2 年度高齢者運転免許証自主返納事業実績について、令和 2 年度は 94 人が利用し、過去最高の昨年度の利用よりも減少したが、過去 2 番目に多い実績となっている。内訳では日交タクシー利用券（20,000 円分）が 65 人、丹海バス回数券（20,000 円分）の交付が 19 人とほとんどがタクシーか丹海バスの回数券となっている。
- ▷丹海バスとクアハウス岩滝の連携事業実績について、令和 2 年度実績は 223 人となった。令和 2 年 5 月末までクアハウス岩滝の改修工事があったため、年度途中から再開した。

(4) その他

京都府北部地域連携都市圏における広域的地域公共交通計画の策定について

- ・人口減少等が進み、それぞれの市町が単独で全ての機能を維持・確保していくことが困難である中、京都府北部 5 市 2 町（福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町）で令和 3 年度末で作成するもの。直近では 7 月にアンケート調査を実施予定。今後このような動きがあるということ、交通計画の策定過程の中で、当協議会でも議題に挙がるということをご承知おき頂きたい。

会 長：

新しい動きが始まっており広域的な取り組みとなるので、皆様にも力添えをいただきたい。

委 員：

今の与謝野町地域公共交通会議の名称も、分科会の名称に変更となるのか。

事務局：

名称は現在の与謝野町地域公共交通会議から変わらないが、広域計画を作る際には活性化協議会というのを組織しているため、その中では与謝野町分科会の位置づけとなるということを理解していただきたい。そちらからは分科会で見えるということ。

委 員：

本日の会議の進行について、正直言ってよくわからない。個人の問題もあるかもしれないが、こういう会議の進行では目が回るという会議に思えた。細かく審議をするといった点ではもう少し考えてほしかった。全体がうまく進行したという意味では素晴らしいけれども、本当に討議ができたのかといった点では疑問を抱く。

会 長：

会議の進行についての不十分さというご指摘はそれぞれの案件について、もう少し議論を交わされるように我々も工夫するべきだと改めて感じた。皆様にお諮りした、説明させていただいた内容について、後日でも、何かしらご意見、ご質問があるということであれば遠慮なく企画財政課までご連絡いただき疑問点を解消していけるよう我々も説明をさせていただきたいので、その旨よろしく願いたい。

○WILLER TRAINS 株式会社より、隣接する京丹後市で令和 3 年 3 月に行われた新しい移動手段 WILLER mobi の実証実験（無償）について結果を共有。実際の乗っていただいた数字は 150 回、利用者推移は徐々に増えており右肩上がりであり、どうやったら認知されるかが課題となる中、認知度が高まっていったことで、利用者が増加したと考えている。この 6 月 30 日からは有料の実証実験を行うことについても簡単に説明された。

【質疑応答】

委 員：

今の説明でどういう実験だったかは分かったが、事業形態が分かりづらかった印象。そこを説明してもらわないと、どういう目的なのかタクシーとの違いなどが分かりにくい。また、今までは無料だったため、数字は参考にならないと思うが、これから有償となり本当の実験が始まるということになると思うがそのような理解でよかったか。

WILLER 社：

説明が不足しており申し訳ない。補足として、お客様がエリアの中で呼び出しを行うが、タクシーと違う部分は乗客と違う方が予約した場合、走行中に拾う、乗り合いの形となっている。一度に運べる人数の効率性が上がっていく、ひいては車両の有効活用につながるのではと考えている。有償で実験していくことへの事業性はあるのか、いただいた通り、こちらがどの程度皆さんの生活の中に受け入れていただけるのかを見ていくもの。意見ありがとうございます。

WILLER 社：

サービスはタクシーとバスの間みたいな位置づけで、地元の峰山タクシー会社へお願いをしている。タクシーと違うのは先ほど説明した通り、途中移動している中で全然知らない拾える人がいたら拾うという相乗りの形になっている。場合によってはタクシーより時間がかかるかもしれないが、皆さんの普段使いのコストを下げられることになる。

委 員：

全国で行われている取組を丹後でもやるのか、それとも全国初の取組を丹後で行っているということなのか。

WILLER 社：

3月に実施した無償で短期間で行った実証実験は他にもあるが、今度1年近く有償で行う実証実験については、他地域でもスタートをさせるが、全国でも初めてに近い取組となる。

委 員：

これは車は何台くらいで実施される予定か。根拠とか届出はどこにしているのか。

WILLER 社：

峰山タクシーが運行するハイエースタイプの車両を1台借りることとしている。京丹後署管轄内なので京丹後署へ提出している。根拠は道路運送法の第21条で運行している。

委 員：

ナンバープレートは緑色か。

WILLER 社：

緑色。定期外収入は観光客を呼び込むにはどうすればよいかを考えればよいか、定期収入については人口減を迎える中、なかなか増加させることは難しい。全体の移動総量を増やすということを目指して掲げていて、バスと鉄道とある中で、新しくバスとタクシーの中間的な立ち位置のものを増やすことで、移動総量が増えて、高齢者に気軽に外出していただくことにつながれば。

委 員：

企業の視点ということは分かった。例えば町のほうでやるのであればどのようなやり方ができるのか、今後の展開を教えてほしい。昔、京都府の主導で「マルチ交通」の実証実験をしたことがあるが、エリアが限られていて、期間も短く一般に浸透しなかった。調査会社から報告をもらっても調査件数が少なかったこともあり、判断が難しいものだった。行政から支援をもらったの事業。民間企業であるので、利益目的であることは理解しているが、買い物とか通院利用の高齢者の方々が利用されるということで、使われるだろうと思うが、与謝野町でも隅々までアンケートを取らせてもらった。買い物に対して、ひまわりバスがある中でこういうものを使って買い物に行かれるケースが多い中で、もっと小回りの利きやすいものを使ってほしいという要望があった。民間の目でもっとどうしたらよいかというアドバイスをいただければと思う。

もう一点、京丹後市の旧丹後町、一般住民が主体となって運行する「支えあい交通」はご存じか。東さんという方がやっているが、官が民を食うことは難しいと思うので、官が主体に民間に働きかけて与謝野町はタクシー会社があるので実施は難しいと思うが、そういうところを上手く活用できる方法や手段があれば教えていただければと思う。

WILLER 社：

いただきました通り京都丹後鉄道全域ということで、鉄道で言えばこちらも走らせていただいでいて、鉄道の利用者を促進する取り組みは必要。地域の方々の利便性を上げるためには京丹後市だけでなく、他のエリアも広げていただければ。途中お話しがありましてとおり、既に交通サービスを実施されている事業者さんと相乗効果で増やしていく必要がある。与謝野町でいけば丹後海陸交通株式会社様や日本交通タクシー株式会社様や他にも事業者がいらっしゃる。相談をさせていただければと思う。

○近畿運輸局藤原支局長より発言。

始めに地域の交通事業者の皆様におかれては、新型コロナウイルスの影響により厳しい状況の中、感染予防対策をしながら交通サービスを実践していただき感謝申し上げます。また、町長はじめ関係者

の皆様におかれては地域の交通事業者に対して運行維持、感染予防対策を講じていただき重ねて感謝申し上げます。本日は事務局をお願いして手元にカラー刷りの資料を配布いただいているので、その内容について説明する。交通事業者の皆様が写真のように飛沫予防対策や消毒、換気をしておりコロナ禍においても安心な交通としてあらゆる予防対策を実践していただいている。左下を見ていただくと昨年の10月にコロナ対策セミナーを開催し、京都大学の宮沢淳教授に講演頂いた。その際には先生からも交通事業者の皆さんに安全対策を十分に実施していただいていると太鼓判をいただいた。

一方で右下の利用者数、また収入ですがコロナ禍も含めて大変厳しくなっている。今年1月のデータですが、バス、タクシーは非常に厳しく、5割近くは経営を維持することも難しくなっている。皆さんのご支援をいただかないと1年も経営が維持出来ない状況だと聞いている。一番最後の円だが、そういった中でも1から3までで、1つ目は感染予防対策、2つ目ポイントや割引サービス、3つ目デリバリー、その他サービス 全体の地域で交通事業者やっていることだが、様々な取り組みを進めている。ぜひ皆さまにおかれましては機会がありましたら、公共交通はしっかりと感染防止対策をしているというところで安心してご利用いただけるということを発信していただければ大変助かる。

もう1点、昨年だが国の地域公共交通活性化法が改正された。主なポイントとして地域が自ら活性化計画交通、2つ目輸送資源の移手段の確保、3つ目利便性の高い地域公共交通の実現の3つがある。簡単に言うと地域の皆さんの手で、町の資源を生かして使いやすい地域公共交通の実現を目指していこうというもの。既にこの会議がこれにあたるのかなと思っている。そういう意味では自治体に公共交通計画を作成してもらおう。先ほども申し上げたが与謝野町をはじめ京都府北部地域5市2町が地域で連携を図られて計画策定を進められている。私ども運輸支局としても非常にありがたいことと思っており、引き続きご協力いただければと思っている。地域の皆様、交通事業者がよりよい交通を作れるよう、同じように考えながら、勉強していただければと思う。どうぞよろしく申し上げます。

○議題4番目の令和3年度のコミュニティバスひまわりの事業計画については事務局から国への申請をさせていただくので承知いただきたい。1点だけ紹介をさせていただくが、丹海バス路線である峰山四辻線は生活交通確保維持改善計画を京丹後市で作成され申請をされる予定だが、路線の一部区域に与謝野町も入っているため、京丹後市、与謝野町の地域公共交通会議で承認される必要がある。今回の会議では準備が間に合わなかったため協議案件に挙げられていないが、近日中に書面協議を開催させていただく予定なので、承知いただきたい。

4. 閉会